

## おおかみ座・ケンタウルス座

6月～7月の日暮れ、南の地平線付近に明るめの星々がちらばって輝いているのが見えるでしょう。ケンタウルス座とおおかみ座です。浜松の緯度では、おおかみ座は水平線上にほぼ全体が見え、ケンタウルス座は上半分ほど。

ケンタウルス座の地平線下の部分には、たいへん明るい星のケンタウルス座α星があります。その明るさは、地球から見える恒星の中でも上位です。また、この恒星は現在分かっている多くの恒星の中で、最も太陽系に近く、4.4光年のところにあります。

ケンタウルスというのは、腰から下が馬の体となっている半人半獣の種族の名前です。ケンタウルスの多くは、山の洞穴に住み、乱暴な種族だったそうで、星座でもおおかみ座を槍で刺す姿が表されています。

一方、この槍で刺されているおおかみ座は、実はもともとは、古代ギリシアのアルカディアの王だったリュカオンという人間でした。おおかみの姿に変えたのは、大神ゼウスです。なぜ、ゼウスはおおかみの姿に変えてしまったのでしょうか。

ある日ゼウスは、王であったリュカオンのところへ訪れました。ゼウスをもてなそうと、リュカオンはご馳走を準備しました。しかし、ご馳走として出した料理は、人間の肉を使ったものだったのです。それに気付いたゼウスが怒り、リュカオンをはじめ、その一族の姿をおおかみの姿に変えてしまいました。そのおおかみが、おおかみ座になったと言われています。

参考図書：全天星座百科（藤井旭著 / 河出書房新社）

## 今月の見どころ星どころ 七夕

文・浜松市天文台  
村松 大河



7月7日といえば、「七夕」と連想される方が多くいらっしゃると思います。彦星と織姫星が7月7日だけ会うことができるはずなのに、梅雨の真っ最中で、晴れる日が少ない時期です。なぜこんな時期に、七夕があるのでしょうか。それは、昔と今で使っているカレンダーが違うために起こっているのです。現在使われているカレンダーは、太陽の運行を基準にした太陽暦（新暦）が採用されています。しかし、明治5年までは月の運行を基準とした太陰暦（旧暦）を採用していました。本来、七夕は太陰暦の7月7日に行われる行事だったのです。旧暦の7月7日は、新暦からおよそ一ヶ月遅れになり、今年は8月29日になります。本来の七夕でしたら、梅雨も明け、星を見るのによい時期になっていると思いますが、せっかくなら今年の7月7日に空を見上げて、彦星であるアルタイルや織姫星であるベガを見つけてみてください。

2つの星を見つけたら、一緒にはくちょう座のデネブを探してみましょう。デネブは、ベガやアルタイルよりもさらに遠い、距離1800光年の星です。遠く輝く星を結び、夜空にできる大きな三角形「夏の大三角」を見ながら、夏の夜空を楽しんでください。（参考図書：誰でも楽しめる星の歳時記 人と宇宙が紡ぐ風物詩）



## 星空クイズ

月面にはクレーターというくぼ地がいくつもあります。1601年にガリレオが発見し、ギリシャ語でコップやおわんを表す言葉「クレーター」と名付けました。数あるクレーターのうち、上弦の月のころ、3つのクレーターの縁に太陽が当たること、ある文字が浮かび上がる現象があります。そのときに、浮かび上がる文字は何でしょうか。

参考図書：月のきほん（白尾元理 著 / 誠文堂新光社）  
星空年鑑 2025（株式会社アストロアーツ 発行）

- A 「あ」
- B 「X」
- C 「浜」

答えは中面へ

# 星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

2025年7月

上旬 22時ごろ

中旬 21時ごろ

下旬 20時ごろ

惑星の位置は  
上旬から下旬にかけて  
少しずつ移動します



## 7月の天文現象

- 3日 上弦 ☾
- 7日 七夕【小暑】 太陽黄経105°
- 11日 満月 ☽
- 18日 下弦 ☾
- 22日【大暑】 太陽黄経120°
- 25日 新月 ☾

上の星図は、空にかざして  
実際の方角と合わせてご覧ください。



7月の和名である「文月」は、七夕にちなんでつけられた呼び名とも言われています。雲が多くなる6月が終わり、7月中旬を過ぎると梅雨明けを迎えます。昨年の浜松はそのころ、急に気温も高くなりました。暑い夏がやってきますが、梅雨明けの夏の夜空を楽しみたいですね。





# 浜松市天文台

OK 天候不良開催 NG 天候不良中止

ウェブサイトはこちら



## イベント情報

天文台ウェブサイトよりお申込みください。

### 7/5・12・19・26



土



## 星空観望会 宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望します。

時間 19:30～21:00

会場 天文台屋上

申し込み 開催日3日前の水曜13時から受付(30分ごと先着20組)

## 7/25 メシエウォーキング

高感度ビデオカメラ(CMOS)を使って星雲や星団の電観望を楽しみましょう。撮影したメシエ天体のデータはおみやげにどうぞ。

時間 19:30～21:30 会場 天文台屋上

申し込み 7/16(水)13時から受付(先着10組)



## 7/27 星と景色の写真講座

三脚と一眼レフカメラで、星が写った風景写真を撮影するための入門講座です。

時間 18:30～21:00 会場 2F 講義室

申し込み 7/16(水)13時から受付(先着6組)



## 8/3 太陽・昼間の星観望会

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や昼間に見える天体を観望します。

時間 14:00～16:00 会場 天文台屋上

申し込み 予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。



## 8/8・15 親子天文教室

小学生親子向けの天文教室です。お話し観望がセットになっています。

時間 19:00～20:30 会場 1F ホール / 天文台屋上

対象 小学生親子 申し込み 7/16(水)13時から受付(両日とも先着20組)



## 7/6 太陽・昼間の星観望会

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や昼間に見える天体を観望します。

時間 14:00～16:00 会場 天文台屋上

申し込み 予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。



## 7/20 双眼鏡講座

双眼鏡の構造や使い方を知る講座です。

時間 19:30～20:30 会場 2F 講義室 / 天文台屋上

申し込み 7/9(水)13時から受付(先着10組)



## 7/26 天文講座「広がる宇宙へはじめての一步」

宇宙について知りたいという方のための基礎的な話です。天体の動き、宇宙の広がり、簡単な天文学の歴史などについての講座です。

時間 15:00～16:30 会場 天文台屋上 対象 小学4年生以上

申し込み 7/9(水)13時から受付(先着15組)

## 8/1・5 望遠鏡を作ろう

手作り望遠鏡を製作して月を見よう。

時間 両日とも(1)19時～20時(2)20時～21時の2部制

会場 2F 講義室 / 天文台屋上 対象 小学生親子 材料費 3,000円

申し込み 両日とも7/16(水)13時から受付(両日とも各回7組)



## 8/3 「光の科学」スペクトル講座

分光器を作って「光」を知る講座です。

時間 13:00～14:30 会場 2F 講義室 / 天文台屋上

対象 小学5年生以上 申し込み 7/16(水)13時から受付(先着10組)



## 8/9 スターウィーク 星空観望会

石人の星公園で観望会を行います。

時間 19:30～21:00 会場 石人の星公園

申し込み 予約不要 直接会場へお越しください。

※お車でお越しの方は石人の星公園の駐車場をご利用ください。

裏面のクイズの答え：正解は、B(「月面X」と呼ばれる現象)

# 浜松科学館

## プラネタリウム番組情報

※7/1は市政記念日のため土日祝と同じプログラムです。 ※夏季：7/20～8/31

解説員がライブ解説する「プラネタリウム」と臨場感ある「大型映像」をお楽しみいただけます。

blog



### プラネタリウム



#### 七夕まつり

～7/13 14:30～15:25  
～6/30 土日祝は11:30～12:25も投映  
7/1～ 土日祝・夏季は13:00～13:55も投映



#### 夜空のどうぶつ図鑑

7/15～ 14:30～15:25  
土日祝・夏季は13:00～13:55も投映

### 大型映像



#### ティラノサウルス

～6/30 13:15～13:55  
7/1～ 10:30～11:10  
いずれも土日祝・夏季のみ上映



#### ヒーリングアース IN JAPAN

土日祝・夏季 15:50～16:30

### プラネタリウム



#### 星空マルシェ

～7/18までの平日 15:50～16:30

### キッズプラネタリウム



#### きらきら☆こんやのおほしさま

～6/30 10:30～11:05

7/1～ 11:30～12:05  
いずれも土日祝・夏季のみ上映

### 夜の科学館 特別投映



#### 星空食堂

今回は宇宙日本食についてご紹介します。

7月11日(金) 18:00～18:40  
19:00～19:40

### お知らせ

7月1日から土日祝・長期休暇の投映スケジュールが変わります。  
※平日の変更はありません。

10:30～11:10	大型映像
11:30～12:05	キッズプラネタリウム
13:00～13:55	プラネタリウム
14:30～15:25	プラネタリウム
15:50～16:30	大型映像

# りゅう座の星も、いつかの北極星

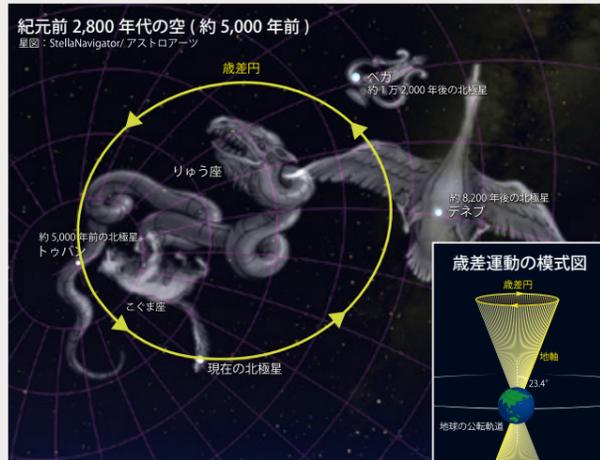
column

文・浜松科学館 天文チーム 伊藤将宏

7月、アークトゥルスやスピカが西の空に傾き、南の空にはさそり座、東の空には夏の大三角が昇って夏本番の夜空となります。星空観望会も各地で行われることでしょう。にぎやかな南の空に比べ、北の空が見過ごされてしまおうですが、この時期、北の空にはりゅう座があります。ギリシャ神話では大神ゼウスと女神ヘラの結婚を祝って贈られた黄金のリングを守るドラゴン「ラドン」として登場します。

そして、今から約5,000年前、りゅう座の星「トゥバン」が北極星でした。北極星といえば「北の方角を知る目印の星」「空の中で動かない星」とされ、永久にそこにあるもののように感じます。しかし実は、「北極星」と名乗る星は長い時間をかけて移り変わっていくものなのです。北極星とは、地軸を空に伸ばしていった方向にある星のことで、現在はこぐま座の尻尾の星がこれにあたります。地球の地軸は公転軌道に対して約23.4°傾いており、太陽などの天体の引力によって、立て直そうとする力が絶えず働いています。また、地球の自転や公転で地球自身も絶えず動いています。すると、地球は地軸の向きを変えながら自転・公転することになります。この様子は止まりかけのコマの首振りにとえられます。地球の首振りを歳差運動といい、一回りするのに約2万

6,000年かかります。数千年という時間単位で空を見ると、北極星は歳差円の近くにある星が持ち回りで担当しているということがわかります。5,000年前の人々にとって、北極星はりゅう座の星だったのです。



## 星空を楽しむ

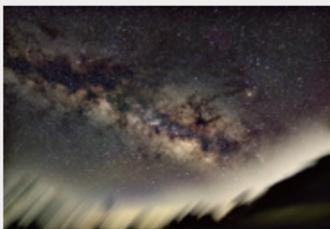
## 天の川に想いを馳せる

文 浜松市天文台事業協力者の会 赤峰恭太郎

夏の晴れた日に夜空を見ると、ぼんやりとした白い帯が見えます。これが天の川です。古代の人々はこれを川や母乳だと思っていたようですが、望遠鏡が発明されると無数の星々の集まりであることがわかりました。今では、天の川の正体は数千億個の星の大集団(天の川銀河)であり、その中に私たちの太陽系があることもわかっています。私たちが天の川の一部なのです。

天の川銀河は、ちょうど目玉焼きのような形をしていて、太陽系は端のほう(白身の部分)にいます。目玉焼きを横から見ると棒状に見えるように、天の川銀河も帯のように見えるわけです。特に夏は銀河の中心(黄身の部分)方向を見ているので、天の川を観察しやすい季節といえます。天の川はとても淡いので、街明かりが少ない場所で、月明かりの影響が少ない新月付近の時期に観察するのがオススメです。

寝そべりながら天の川を見ると、体が宇宙に浮かんでいるような不思議な感覚になります。この夏は天の川の観察にチャレンジしてみたいいかがでしょうか？



竜頭山(浜松市)で撮影した天の川(撮影:赤峰)

